

## 平成24年度市施策 評価報告書と市民意識調査のギャップについて

**議員** 市民意識調査の報告書に対し市の施策評価報告書の間で隔たりが見られるが、その理由をたずねる。

**市長** 市民意識調査は、市民ニーズを把握するため、調査時点での地域の課題に対する市民の重要度や満足度等を調査するものである。

一方、施策評価は第6次笠岡市総合計画の施策について指標を含めて進捗度を総合的に評価して施策の改善に結びつけるものであり、目的や手法が異なることにより隔たりが生じているためである。

## 仁科文秀議員

シティセールスについて

**議員** 市を挙げて市民が笠岡市をPRし発信する制度

を発足させてはどうか。

**市長** 本市の魅力を口コミやブログ、フェイスブック、雑誌等で情報発信したり、アイデアの提案をしていただく「シティセールスパートナー制度」を実施していく予定である。

## 孤立化、孤独死を防ぐために

**議員** 社会問題化してくる孤立化、孤独死の問題に対して、本市では今後さらに何に重点を置き、どのような対策をしていくのか。

**健康福祉部長** 身近な方策として、緊急連絡先や助け合える友人等を確保していく等が必要だと考えている。

これまで実施してきた命のバトンの普及等の地域での見守り活動を継続するとともに、専門職と地域の連携強化により、孤立高齢者の早期発見と支援体制づくりを進めていきたいと考えている。



## 奥野泰久議員

旧北木小学校跡地の福祉施設利用について

**議員** 旧校舎2階での福祉施設の利用は構造上制約される部分が多く、大変不便である。隣接する空き地を福扯施設として利用することができないかたずねる。

**市長** 現在、工事費用の問題、利用者の利便性の問題等につき、地元を交えて協議しております、この中で校舎の改修か隣接地への建設かを含めた検討を行っている。

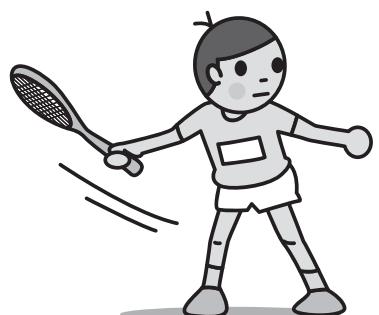
## 市政報告書の作成時期について

**議員** 市政報告書について、もう少し前倒しで作成できないかたずねる。

**市長** 9月議会の決算認定後、少しでも早く渡すことができるよう努力していく。

## 福祉保健総合条例の制定について

**議員** 政策分野別の総合条例の一つとして、複雑多様化し、重要課題を抱える政



**議員** 行政が行っていた公共施設の管理運営を管理団体に任せ、いわゆる指定管理制度の運用について本市のこれからの方針をたずねる。

**市長** 平成16年から始まり、現在は道の駅、市民会館等52施設で導入されている。

活力の導入といった視点と施設利用者の満足度のアンケートでも好評価をいただいていることから、今後も活用していきたいと考えている。

**議員** 建設要望からかなり経過しているが、その後の状況をたずねる。

**市長** 財政難から事業の凍結を打ち出して以来、建設予定地として造成しそのまま保留になっているところ

であり、今後学校施設の耐震分野について総合化・体